令和４年度　県立取手第一高等学校自己評価表

目指す学校像	・生徒が自ら学び自ら考える力を育み、時代の変化に敏感に対応し、国際化社会・高度情報化社会に適応できる能力の育成に努める。 ・総合学科の特色を活かしたキャリア教育の充実と主体的な学びの実践による多様な進路希望の実現を目指し、人間性豊かで活力のある人間育成に努める。

昨年度の成果と課題	重点項目	重　点　目　標	達成状況
・総合学科としての特色を活かし、「産業社会と人間」の授業を核として、横断的・総合的な学習指導体制が確立しつつある。生徒の選択分野に応じた指導による、家庭学習習慣を確立させること、各種検定においてより上の級を目指す意識付けが課題となる。今後は、思考力・判断力・表現力の育成を目指した質の高い授業の展開及び各種検定や共通テストに対応する教員研修の充実を図る。 ・３年間を見据えて、段階的・継続的な進路指導体制を一層強化し、生徒が希望する多様な進路選択に対応する必要がある。 ・組織的・継続的な指導に、服装頭髪指導及び遅刻指導等に力を入れてきた結果、基本的な生活習慣	１　自ら課題を発見し・設定し、ICT 機器を積極的に活用し、解決に必要な知識及び技能を身に付けるための効果的な学習指導方法の確立を図る。	①ICT 機器を一層活用し、主体的，対話的で深い学びの視点から、思考力・判断力・表現力の育成を目指した質の高い授業を研究し実践する。	A
		②総合学科の特色を活かした分野別・系列別学習指導の徹底によって学力向上を図り、学習へのモチベーションを高める。	
		③生徒自身が自らの学びを振り返る機会を積極的に設ける。	
	２　総合学科の特色を活かし、生徒の興味関心を軸とした効果的な進路指導方法の工夫・改善を図る。	④３年間の段階的な進路指導体制の構築と、きめ細かな個別面談を充実させる。	A
		⑤生徒一人一人の希望進路を実現のため、課外・模試等のあり方を検討し、学年の進路指導の見直しを行う。	
	３　様々な状況に対応できる自己指導能力を育成するとともに、教育相談体制を一層充実させ、いじめ等の未然防止・早期発見早期対	⑥基本的生活習慣の確立を目指しつつ、人権教育や道徳の授業等の活用によって生徒が自分や社会について考える機会をつくる。	A
		⑦生徒の実態（不登校・特別支援・不適応等）に応じた援助についてチームで考え、学年・生徒指導部・教育相談部等関係者の連携を密にして生徒の課題解決を援助する。	

が確立しつつある。今後も継続して指導に当たる。心因的な理由による欠席や心の悩みを持つ生徒が増加傾向にある。教育相談体制を充実させ，いじめ等の未然防止・早期発見・早期対応をする必要がある。 ・コロナ禍において様々な行事や部活動が制限された中でも、工夫を凝らして活動している。集団の中での存在感、達成感が得られている。ボランティア活動に参加する生徒が多い。今後は，状況に応じて臨機応変に対応し、所属する集団での課題を見つけ，自らが問題解決できるよう生徒の自発的な活動を促していく必要がある。 ・教員間のコミュニケーションが活発になったことで、業務の分担や軽減が図られ、効果的に業務をこなそうとする機運が高まっている。会議、委員会等の種類及び開催回数が多く、校務分掌や委員会の再編を一層進める必要がある。	応に努める。		
	4　他者と協働しつつ自己実現を図ろうとする態度を育成する。キャリアパスポートを作成し、自身の変容や成長を自己評価できるようにする。	⑧属する集団での課題を見つけ、自らが問題解決できるよう生徒の自発的な活動をサポートする。主体性を持って各種行事に参加させる。	B
		⑨主体性を持って部活動や学校行事への参加を促し、学校生活の活性化を図る。【部活動加入率　７０％】	
		⑩キャリアパスポートの作成にあたっては、教職員が対話的に関わり、生徒の個性を伸ばす指導へとつなげる。	
	5　教職員が効率的な働き方を目指し、事務的な仕事量を減らすことによって自己研鑽の時間を増やす。	⑪教職員相互のコミュニケーションを積極的に行い、連携協力体制を強化し、教職員一丸となって信頼される学校づくりを目指す。	B
		⑫自らの業務一つ一つについて、より効果的な方策を検討するとともに、業務の在り方についても見直しする機会を設ける。	A

「三つの	「育成を目指す資質・	①　本校の校訓（至誠･醇厚･自彊）の精神を礎に、取手一高精神「力耕不吾欺（りきこ	B	A	卒業時に何ができるよ

方針」(スクール・ポリシー)	能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	うわれをあざむかず)」を実践できる人材 ②　主体的に学び、時代の変化やグローバル社会・高度情報化社会に対応できる人材 ③　豊かな人間性を持ち、主体的に社会に貢献できる人材			うになっているかを意識した上での、時期に応じた目標の実現。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	①　総合学科の特色を生かし、「産業社会と人間」の授業を核とした横断的・総合的な学習及び地域と連携した学習の実施によるキャリア教育の充実 ②　充実した情報教育と国際理解教育による、グローバル社会に対応できる人材の育成 ③　生徒の多様な進路希望に対応した教育課程による、就職から大学進学までの幅広い進路希望の実現	A		地元の自治体、企業、中学校関係者との連携を強化する。
	「入学者の受け入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	①　主体的に学び、自分の進路実現を目指し、地道に努力できる生徒 ②　自らのスキルアップを目指し、多様な資格取得に向けて努力できる生徒 ③　豊かに人間性を持ち積極的に奉仕活動に取り組める生徒 ④　自己理解に努め、総合学科のそれぞれの分野に興味を持ち、深く探究しようとする意欲のある生徒	A		学校説明会、中学校訪問、HP 等の広報活動を通して学校が期待する生徒像を周知していく。

評価項目	具 体 的 目 標	具　　体　　的　　方　　策	関連項目	評価	次年度（学期）への主な課題
教科指導(全体)	・ＩＣＴ機器の活用を活発化し一層分かりやすい授業を展開する。 ・生徒の潜在能力を引き出し、基礎力・応用力を養成するため、学習習慣の確立し、生徒の能力の伸長を図る。 ・現状を把握し、自ら課題を発見・設定し、	総合学科として各分野の目標にそった授業計画を毎時間立案し、その内容を理解させる努力をする。	①②	B	・電子黒板、学習端末等 ICT 機器の活用が浸透し、わかり易い授業が展開されている。学習評価を意識した授業改善が進んでいるが、主体的に学ぶ姿勢、基礎学力の定着という点では課題が残る。 ・探究活動では課題発見、解決する能力等が育っておりプレゼンテー
		電子黒板・学習者用端末を活用し、生徒の思考力・判断力・表現力を育成し，主体的に学べるよう授業改善に努める。	①③	A	
		学習評価の在り方を見直し、生徒自身が自らの学びを振り返る機会を設ける。	①③	B	
		総合学科の特色を活かし、多様な科目を履修することで自己のキャリア形成の一助とする。	②⑩	A	
		面談や観察を通して生徒一人一人を把握し、個々の生徒の能力の健全な成長に努める。	⑥⑧	A	

		力、課題を多様な方法で解決する能力の養成。					ション能力に向上が見られる。

※評価基準　　A：大変よくできた。　B：よくできた。　C：やや不十分。　　D：不十分

評価項目		具体的目標	具　体　的　方　策	関連項目	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	基礎学力の向上を図るとともに，国語への興味・関心を高める。	分野の目標に沿った授業計画を立案し、副教材やプリント、ICT 機器を積極的に活用して国語に関する基礎知識と応用力を身につける。	①②③④	A	A	・教科内で模試の分析会議を実施する。 ・教員間で、ＩＣＴを使った授業実践の検討会を実施する。 ・自分の意見を述べる力を育成するため、授業において討論する機会を多く設ける。 ・図書館を活用した授業を取り入れる。
			問題集や課題等を活用し、家庭学習の定着を図る。	①②	B		
			資格検定（漢字検定）の取得者数を昨年度比１５％増を目指す。	②	A		
		多くの作品を読解し，鑑賞することによって，心豊かな人間の育成を目指す。	音読や朗読、暗唱等の読みの徹底を図り、古典の世界に親しめるようにする。	①	A		
			読解にあたっては、その基礎となる語彙や文法事項を理解できるようにする。	①	A		
			作品の鑑賞を通し、多様なものの見方や考え方、生き方を知ることで豊かな心を育み、進路実現の一助となるようにする。	①②④	A		
		生徒個々の進路希望に応じた指導を展開する。	授業観察や面談によって生徒の状況を把握し、個々の能力の伸長に努める。	⑤	B		
			生徒の状況に沿った課外授業を実施する。	⑤	B		
			図書館の利用推進を行うとともに、書物や新聞等の日常的利用を促す。	①②	B		
	地歴公民	基礎学力を定着させ、その知識を活用して自らの考えを表現する歴史的・地理的思考力、公民的資質を養う	タブレット・電子黒板を活用し、グラフや視聴覚資料等を提示することにより、課題探求型の授業を実施する。	①	A	B	・総合型での受験が多い本校で、一般受験の生徒への指導をどうするか。進路実績を重視するのかを含めて、授業・課外の指導のあり方を検討したい。
			現代の国際的・国内の諸問題について授業内容に盛り込み、歴史的・地理的な因果関係を考えさせる。	③	A		
		共通テスト・私立大学の入試、一般教養問題	それぞれの出題傾向を把握し、それに対応した課外の実施・定期考査の問題の精選を行う。	①	B		

		等に対応できる授業を展開する。	模擬試験を通し、多様な問題に対処する力をつけるとともに、事前・事後指導を徹底し、その力を定着させる。	①③	B		・模試対策の時間や自己採点や事後指導の徹底をしていきたい。 ・来年度から新教育課程の、日本史探究・世界史探究・地理総合の授業が始まる。それに向けてさらに課題探究型への授業を追求できるように教材研究を重ね、教材教具の開発に努める。
	数学	基礎学力の定着及び数学的考え方の涵養	基本計算の反復練習や、生徒同士の教えあい活動を通して基礎学力の定着を図る。	①③	A	A	新学習指導要領や新テストに向けての理解と準備を進める。 基礎学力の定着がなされていない生徒へのきめ細やかな指導を行う。 模試・共通テスト・大学入試等に対応できる応用力を育成する。
			進路希望に合わせた授業展開を継続し、学力に合わせたきめ細かい指導を通して確かな学力を育む。	①②④	A		
			生徒個々の学力の伸長に努めると共に、補習や課外を実施するなど学力に応じた個別指導を実施する。	①②	A		
		家庭学習習慣の定着	数学に対する興味・関心を高められるような授業を展開することはもちろん、進路の意識を授業の中でも育んでいくことで、自ら学ぶ意欲を持てるよう働きかける。	①②	A		
			課題を定期的に与え、既習事項の確認と家庭学習の習慣を身に付けさせる。	②③	A		
			定期考査だけでなく、課題テストを定期的に実施する。	②③	B		
		模擬試験・一般入試に対応した指導	教育課程や受験指導の在り方を教科内で吟味し、３年間を見通した指導のシステムを検討していく。	⑤	B		
			模擬試験や共通テストレベルの問題を積極的に取り入れ、授業・定期テストと模擬試験・入試問題とのギャップを埋められるようにする。	⑤	B		

	理科	科学的な事物・現象について関心や探究心を高める。	演示実験等の実施により科学的興味をもたせる。	①②	A	A	・もう少し課題研究に力を入れる。 ・実験や実習の機会を確保する。 ・生徒の思考力・判断力を高められるような探究型授業を実施する。 ・主体的に学習に取り組む態度を高めるために授業の振り返りの時間を設ける。
			身近なものを例に出し、授業内容との関連付けを行う。	②	A		
			観察が困難なもの等については、ＣＧや映像資料を活用する。	①	A		
		科学的に探究する能力と態度を育てる。	観察や実験を積極的に行い、レポートの考察の方法について指導する。	②	B		
			課題研究などを行い、自ら課題を見つけ探求させる。	③⑧	B		
			授業中の発問を工夫し、思考力を高める。	②③	A		
		大学入試レベルの学力を身につけさせる。	課外を行い、生徒の弱点の克服に努め、入試問題を解くことに慣れさせる。	⑤	B		
			入試問題の研究を行い、出題傾向に関する情報を蓄積し、学習効果の向上に努める。	②⑤	A		
			教員研修や教員相互の授業参観を行い、授業の改善を図り、生徒の実力向上につなげる。	⑪	B		

※評価基準　　A：大変よくできた。　B：よくできた。　C：やや不十分。　　D：不十分

評価項目		具体的目標	具　体　的　方　策	関連項目	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	保健体育	健康に対する意識を向上させる。	健康に対する正しい知識を身につける。	①②	A	A	ICT の効果的な活用により、新しい体育学習の在り方を考えていく必要がある。ICT を授業の中でうまく取り入れることで、スポーツや保健に対する新しい価値観を育てることができる
			グループ学習を通して価値観を広げる。	①②	B		
			自己実現に向けて，ライフ・スキルの向上を図る。	①⑦	B		
		体力を向上させる。	新体力テストのデータを活用し，計画的に体力の向上を図る。	①	B		

			体つくり・体ほぐしを授業内で効率的に取り入れ，継続して行う。	①	B		と考える。また、コロナ禍においていかに体力を落とさずにいられるかということも課題の一つである。 保健に関しては、現代の保健課題を積極的に取り入れ、授業とリンクさせながら問題解決力を育むなど、新しい授業展開をしていくことを課題としたい。
			測定・評価基準を確立し，生徒が目標を持って取り組めるように指導・援助を行う。	①	A		
		自主的・主体的に取り組み活発な雰囲気で活動するとともに，集団行動のマナーを身につけさせる。	ルールや服装の遵守・準備片付けの協力・大きい声での挨拶の励行等を指導し，積極的に取り組む姿勢を育てる。	①⑦	A		
			声かけなどのコミュニケーションを通して，互いに尊重しあう態度を養う。	①⑦	A		
			体育委員などリーダーシップをとれる生徒を育成し，生徒の自主性を育てる指導をする。	①⑦	A		
			施設・用具を大切に扱う態度を身に付けさせる。	①⑦	A		
	音楽	音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きを感受して演奏，表現活動を行う。	さまざまな形態や時代の音楽に関心を持ち、主体的に表現活動をする。	①	A	A	・音楽の幅広い活動を通し、学んだことを生かして表現したり、作品の特徴を理解しよさや美しさを味わって学習することができた。次年度も様々な分野の音楽と触れ合う機会を設け、生徒の感性を伸ばすような授業展開をしていきたい。
			リズム、旋律や強弱などの形づくっている要素を知覚し、それらが生み出す音楽的効果を感受し、表現の工夫ができるようにする。	①	A		
		音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きを感受して演奏，表現活動を行う。	アンサンブル活動の中で、互いに協力し合い音楽を作り上げる喜びを味わう。	①③	B		
			世界の諸民族や日本の伝統音楽に対する理解を深め、自分なりの観点をもって音楽のよさや美しさを味わう。	①③	A		
	美術	作品制作，鑑賞を通して観察力や創造力を高	鉛筆、絵具などの使い方を覚え、デザインに関する知識、美術表現の基礎を学ぶ。	①	A	A	・一人一人が自分で考え作品を制作しようと意

		め，自己の良さや個性を発見する。	作品を制作、完成することにより創造する楽しさ、達成する喜びを味わわせる。	①	A		欲的に活動していた。次年度も美術表現の基礎を身に付けさせ、生徒の表現の幅を広げていきたい。
			自身でコンセプトを考え、制作を行うことで、自己表現の発見と個性を感じさせる。	③	A		
	英語	自発的，継続的学習を目指す。	授業重視の学習指導に加え，予習，復習，週末課題，小テスト等をとおして自ら学ぶ姿勢を養い，継続的な家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	①③	B	B	・コースに応じた授業展開の実施、家庭学習の習慣化、基礎学力の定着を引き続き目指す。 ・英検や一般入試対策の実施 ・ICT を活用した組織的・継続的な指導法の研究、確立と共通理解
		基礎学力の定着からさらに実力の養成を図る。	英検２級合格相当の学力養成を念頭に，授業内容や教材・課題等の構成を工夫・改善し,さらなる実力の養成を図る。	①②	B		
		一般入試での大学進学可能な学力向上を図る。	上位層の伸張を図るため，継続的な課外指導等を含めて３年間を見据えた計画的な指導を組み立て，大学一般入試合格可能な高い学力を養う。	②④⑤	B		

※評価基準　　A：大変よくできた。　B：よくできた。　C：やや不十分。　　D：不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	関連項目	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	家庭	意欲を喚起する学習指導・学習環境	生徒の興味・関心を引き出し、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する。	①②	A	A	グループ活動などが少なかった。次年度は対話の機会を十分に設けたい。 基本的な生活技術で、特に調理技術を　高めるのは授業だけでは難しい。調理実習などをきっかけに家庭で実践
			身近な生活課題に目を向けさせ、主体的・対話的に取り組める学習展開を工夫する。	③⑧	B		
			ICT 機器を効果的に活用した授業を展開する。実習では火気・用具・材料等の取り扱いに注意し事故防止の指導を徹底する。	①③	A		
		科学的な理解と技術の習得	体験的に学びながら生活を科学的にとらえられるように、実験・実習を効果的に行う。	①③	A		
			基礎的・基本的な生活技術を習得できるようにする。	①③	B		

		生活の場での実践力の育成	学んだことを実生活に生かせるよう、実践課題を出す。	③⑧	A		してみようと思えるように授業を工夫したい。
	工業	単位制総合学科高校に適した工業科の教育課程を実現する。	１年次の分野紹介における丁寧な説明と「分野基礎」の実施を通し、専門課程を熟知した上での分野選択を実現するとともに、生徒の適正人数の確保に努める。	②⑤	B	A	・安全教育の徹底と事故防止に努め、健全な勤労観・倫理観の育成に努める。 ・生徒の適正人数の確保に努める。 ・資格取得の指導体制の継続と充実を図る。 ・老朽化した施設・設備の計画的な充実・更新を図る。 ・基礎基本を重視しつつ、かつ，社会の変化や「新しい生活様式」に対応できるよう実習内容や指導法について検討する。 ・働き方改革により、教員の勤務時間短縮と、各種研修の充実を図る。
			１・２年次の授業で、「情報数理基礎」「工業技術基礎」の内容を補い、基礎力の向上及びものづくり教育を推進する。	①②	A		
		各種資格指導を充実させる。 ジュニアマイスター育成に努める。	国家資格「工事担任者」「ボイラー技士」については授業において積極的な指導を行うとともに課外指導を行う。資格取得率 80%以上を目標とする。また、「危険物取扱者乙種第４類」においても適宜課外指導を行い、合格率 40%以上を目標とする。	②⑤	B		
		時代の要請に適応した専門知識をもつ高校生を育成する。	ネットワーク技術やロボット・制御技術、及びＣＡＤ・ＣＡＭなどの先端技術を取り入れた授業と実習を行い、作品や成果にもとづいた進路実現を図る。	②⑤	A		
			レポートやプレゼンテーションの指導を各授業に取り入れ、今日の技術者として必要な表現力を育てる。	①②⑤	A		
			教員の専門性（校外研修等）の向上を図る。	①②	B		
		生徒の多様な進路志望に応えるとともに，「ものづくりはひとづくり」の観点から社会で活躍する技術者の育成に努める。	総合学科の特性を生かし、大学、専門学校、就職のいずれをも視野に入れた指導を行い、生徒の希望進路実現を図る。	②⑤	A		
			将来、社会で活躍できる技術者の育成を念頭に、学力、技能ならびに安全や技術者としての倫理等について継続的な指導を行う。	①②⑤⑦	A		
	商業	ビジネス分野に興味・関心をもたせ，自ら学び考える姿勢を育てる。	わかりやすい授業の展開により商業科目に興味を持たせ、自ら学ぶ姿勢を育て確かな知識を身に付けさせる。	①②	B	B	・ビジネス分野に興味関心を持つ生徒が増える工夫。 ・ICT（タブレット）の
			授業を通して変化する社会に対応する考え方、見方の力をつけさせる。	①②	B		

			社会的責任を担う職業人として、円滑なコミュニケーションを図ることを心がけさせる。倫理観を醸成し、社会の信頼を得てビジネスの諸活動に取り組む人材を育成する。	⑥⑧	B		活用 ・上級資格取得者を増やす ・授業間連携を推進し、また習熟度に応じた内容を展開する。新課程における科目について研修を深める。
		資格指導を充実させ，進路選択の幅を広げる。	グループ学習を取り入れ、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	③⑧	A		・進学をふまえ、論理的思考力の育成が課題
			資格取得を通して実践的な学力を養い、希望進路を実現する。	①④	A		
	情報	情報社会に興味や関心をもたせ、自ら学び自ら考える姿勢を育てる。	情報処理に関する基礎的学習を行い、基礎的な知識を身に着けると同時に、情報技術に関する最新のニュースなどを題材として扱い、知識の定着や学習意欲の向上を図る。	①②	A	B	大学入学共通テストの受験を見据え、プログラミングやデータサイエンスの実習の割合を増やし、これからの社会に必要な能力を向上させる。
			文書作成、表計算、プレゼンテーション、情報収集などの実習を行い、情報活用能力の向上を育成したうえで、自ら設定した課題を解決するような題材を扱い、問題解決のための思考力・判断力・表現力を育成する。	①⑧	B		
		効果的にコミュニケーションを行う能力を伸ばし、積極的に情報社会に参加する態度を育てる。	情報社会の影の部分を理解させ、社会における情報モラルの問題や社会問題について考えさせたうえで、グループワークなどを通して他者と協力して問題解決するための態度を育てる。	①③⑧	B		

※評価基準　　A：大変よくできた。　B：よくできた。　C：やや不十分。　　D：不十分

評価項目	具体的目標	具　体　的　方　策	関連項目	評価		次年度（学期）への主な課題
教務	総合学科の特色を活か	単位制総合学科としての利点を生かし、将来の社会情勢に対応できる能力を身	②③	B	B	・総合学科の特色・魅力

	し、多様な進路希望に対応するための教育課程の編成と運用を行う。	に付けられるような体制を整備する。 「教育課程検討委員会」・「年次会」・「教科会」等において研究や検討を深め、教育課程の適切な編成・運用を行う。	⑤			の向上 ・「教助」のさらなる有効活用を図り、各年次との連携強化 ・広報活動のさらなる活発化とホームページのコンテンツの充実と更新の頻回 ・授業実践動画等の活用や研修により教職員のさらなる学習指導力向上を図る ・ＩＣＴの活用による校務の効率化
	生徒情報の管理と適正な運用を行う。	教育支援システム「教助」を有効活用することにより、生徒情報を適切かつ効率的に管理する。生徒の欠課時数や成績不振科目等の把握に努め、各教科・年次・担任と連携し、個々の生徒の指導や学習活動の充実に寄与する。	④⑥⑦	B		
	広報活動の充実を図る。	ホームページ・学校案内（スクールガイド）等を充実させ、様々なメディアや機会を活用して本校の情報を発信していく。 学校公開・学校説明会等の更なる充実を図り、より多くの入学志願者の獲得を目指す。	③⑨	B		
	職員の学習指導方法の更なる向上と充実を図る。	授業研究や研修の機会を提供し、タブレットや電子黒板を活用した新しい学習指導法を職員が習得することを目指す。 様々な情報収集と提供を積極的に行い、大学入試制度改革や新教育課程等に対応した指導体制を構築していく。	①④⑤	B		
	生徒の学習活動の充実を図る。	学校行事の精選と活動時間の確保を両立し、授業時数の管理と時間数の確保を行う。 特別時間割・考査時間割等の早期の編成と適正な運用を行い、学習指導計画の遂行に寄与する。 キャリアパスポートの作成促進と有効活用に努め、生徒の成長を促す。	⑨⑩	B		
	教務部の活動を活性化し教育活動の円滑化を図る。	教務部内の各担当部署の効率的な運営と部署間の連携を更に推進し、教育活動の円滑化を図る。 部員間の連携強化によりシステム部門の負担の分散を図りつつ、ICT の計画的・組織的な運用・整備・更新を推進し、校務の効率化と遠隔オンライン教育に対応した体制整備に努める。	⑧⑪⑫	B		
生徒指導	基本的生活習慣の確立	身だしなみに係る段階的指導を継続的に実施し、頭髪・服装の適正化を図る。	⑥	A	A	学校全体として生徒は落ち着いて生活できて

		登下校指導で挨拶の重要性を理解させ、日々の遅刻指導と月間遅刻指導で遅刻者の減少を図る。	⑥	A		いる。一部改善できていない者もいるが、身だしなみ、ルールやマナーの遵守、生活習慣についても多くの者が確立できている。次年度以降も継続して指導していきたい。コロナの感染予防で地域と連携して活動する機会が減っているので、次年度は考慮し、感染対策を万全にしたうえで少しずつ活動を増やしていきたい。また、精神的な問題を抱えている生徒が増えているように感じている。生徒の変化を見逃さず、教員間で常に情報を共有しながら組織として対応していきたい。生徒一人ひとりが意欲をもって生き生きと活動できる学校になるために、生徒指導部からも積極的に発信していくことが次年度以降求められる。
	自己指導力の育成	学校行事を通して、その場面でどのような行動が適切か、自分で考え実行する能力を身につけさせる。	⑥⑧	A		
	事故や問題行動の予防	学校活動や講演会を通して教員が積極的に働きかけ、リスク予測やリスク回避能力を身につけさせ事故や問題行動の未然防止に努める。	⑥⑧	A		
	保護者・地域・関係諸機関との連携	家庭との連絡を密にして、校則等の遵守に協力を依頼する。	⑥⑦	A		
		地域住民や関係諸機関と連携して校外における生徒のマナー指導を行う。	⑥⑦	B		
		地域の青少年相談員や幼小中学校・警察との情報連携を図る。	⑦	B		

進路指導	希望進路の実現	3 年間の段階的な進路指導体制を構築し、年次･教科等と連携を密に図って生徒一人一人が目標とする進路実現を支援する。	④⑤	A	B	・入試の多様化により、特に学校推薦型や総合型の迅速で正確な情報収集、提供が不可欠。 ・いずれの進路希望においても生徒本人が主体的に取り組む姿勢が大切。進路実現へ意識を高める指導ができるかが最大の課題。 ・大学入試での面接や小論文指導の増加で、年次や教科を超えて全校で支援する体制の構築が望まれる。 ・模擬試験と教科指導の連携を密にし、授業にもフィードバックが求められる。 ・年内入試の増加傾向にあっても実力養成を基本にし、一般受験にも対応できる体制づくりが必要。 ・進路希望のミスマッチを防げるよう、各年次へ科目選択や進路情報など段階に応じ適切な時
		きめ細かな個別面談や三者面談を行えるように、生徒･教員･保護者のニーズを把握し、進路に関する資料や情報等を迅速に提供する。	④	A		
		ハローワーク等の外部機関と連携しながら、就職希望者に適切な情報を提供し、就職内定率 100%を目指す。	④	A		
	進学指導体制の強化	一般選抜および学校推薦型選抜（指定校制・公募制）・総合型選抜等の選抜方法を研究し、総合学科の特色や生徒の適性･個性を活かした体系的な指導を充実させ、志望する大学等に合格できるよう支援する。	①⑤	B		
		年次の段階に相応しい課外や模試等のあり方を議論し、効果的に実践することで生徒の学力向上を図る。	⑤	B		
		朝学習や週末課題を通し自主的な学習習慣を促し、毎日の学習記録では自ら日常生活を見直すことで家庭学習の定着を図る。	②	B		
	キャリア教育の充実	「産業社会と人間」の授業を核として横断的・総合的な学習を行うことで、キャリア教育の充実を図る。	⑥⑧	A		
		ボランティア活動・インターンシップ等に積極的に参加することにより、適切な職業観や勤労観を育む。	⑥⑧	B		

						期に提供する。
※評価基準　A：大変よくできた。　B：よくできた。　C：やや不十分。　D：不十分						
評価項目	具 体 的 目 標	具　体　的　方　策	関連項目	評価		次年度（学期）への主な課題
特別活動	ホームルーム活動の活発化と，豊かな心の育成	ロングホームルーム・「道徳」・総合的な探究の時間等を中心に，学校生活のあらゆる場面で心の教育が行えるように努める。	②⑥	A	B	・ボランティア活動や地域貢献の意義の理解を促し、行動につなげる教育をさらに推進する。 ・生徒の自治活動を促し生徒会活動を活性化させ、各種行事の内容や形式を再確認する。 ・行事の前にLHRの時間を計画的に確保する。 ・部活動のあり方の新しいルールを検討していく。
		キャリアパスポートを作成させ，自身の変容や成長を生徒自身が自己評価できるようにする。	①⑩	B		
		ボランティア活動への積極的な参加を促し，自ら地域社会に貢献する姿勢を身に付けさせる。	⑧	B		
	部活動の活性化	部活動紹介や体験入部を新入生を対象に実施し，学校生活を送る上で重要な役割を果たす部活動への参加意欲を高めるとともに，その活性化を図る。	⑨	A		
	学校行事の充実	生徒会を中心とした自治活動を支援し，学校行事における生徒の主体的な取り組みを促す。	⑧	B		
		各年次やホームルーム・地域との連携を図り，よりよい学校生活が過ごせるよう工夫する。	⑧	B		
保健	生徒の生活習慣と心身の健康の確立を図る。	健康診断や身体測定の結果を有効に活用し、自ら健康管理に対する意識を高めさせる。	⑦	A	A	・新型コロナウイルス感染拡大防止に配　慮した上で、保健行事・各健康診断を実施する　。 ・検温・手
		感染症（新型コロナウイルス感染症）の予防について検温や消毒等自己管理できるようにし、生徒の体調の把握に努める。	⑦	B		
	安全教育の実施	緊急時の避難訓練を含む防災訓練を実施し、防災意識の涵養に努める。	⑦	A		

	教育環境の整備	生徒の衛生的な教育環境を確保するとともに、清掃活動の指導を徹底する。	⑦	B		指消毒・換気等の習慣化を指導する。 ・清掃用具の定期的な交換・補充ができるようにする。 ・ゴミの分別を徹底し、衛生的な教育環境を整える。
	思春期の心の育成と豊かな感性を養う。	生徒が日常的にカウンセリングを気軽に受けられる体制をつくる。	⑦	A		
		より豊かな成長の確立を目指し、自らの心と体に主体的に向き合えるよう講演会等で情報を提供する。	⑦	A		
渉外	ＰＴＡ活動の助成 保護者と教職員が協力して、生徒の健全育成を図り会員相互の研修や親睦を深める。	会員保護者との連絡手段としてまち comi メールの利用や会議の出欠席集計に Google フォーム利用、リモート会議開催など ICT 技術を積極的に取り入れ業務の効率化を図る。	⑦	A	B	・事業の見直しを含めた改善 ＰＴＡおよび同窓会との関りについては、コロナ禍で一部断絶され、経験者や引継ぎのできない状況が続いていた。役員間および担当教員とのコミュニケーション復活により有益事業を実施したい。 ・役員選出方法再考 入学式日に多くの役員が決まり、その後集まる機会、選考する土台がないので大変苦慮している。多くの意見を聴取し改善に努めたい。
		会員にとって有益事業を企画・立案・実施に協力して調整を図る。（全体 PTA 事業・年次 PTA 事業の開催）	⑦	B		
		役員選出の方法について、方法論を模索し提案する。また、単位ＰＴＡとしての参加活動は見直しと改善を図りながら進める。	⑦	B		
	同窓会活動の助成 同窓会活動が本校発展に寄与できるよう連携を図り協力する。	同窓生の人的財産を有効活用し、在校生徒へ還元する事業と会員同士が情報交換に充実感の向上に協力する。	⑦	B		
		令和４年度創立 100 周年事業の成功に向けて、PTA・学校との協力体制の推進を図る。	⑦			

						・PTA 研修会の開催方法 年次独自と特徴に配慮しながら全体研修とのバランスを考え検討と見直しを図りたい。
図書館	生徒・教職員の図書館利用を活発化させる。	新刊や話題書をタイムリーに提供できる体制を作り、社会の流れに即した図書館の構築を目指す。	⑦⑧	B	B	・コロナ禍が収束しつつあり、授業での利用頻度も以前の状態に戻りつつある。また、教室に居場所を見い出せない生徒の受け皿にもなっており、今後も該当する生徒がいれば見守っていきたい。 ・三年次生を中心に、自学自習の場として利用する姿が見られた。今後も快適な空間作りに尽力したい。 ・文化祭や校外研修会など、図書委員会独自の活動を再開することができた。内容については、更に検討を重ねたい。 ・視聴覚室の Wi-Fi 機器
		大学入試や就職試験等、生徒の進路実現につながる図書・資料を充実させ、情報収集及び知識の向上を促す。	④⑤	A		
	本校の学習活動・教育活動を支援する。	図書館を利用しての授業が積極的に行われるよう支援すると同時に、生徒の自学自習の場としての環境を充実させる。	①②	B		
		長期休業時においても生徒が図書館を利用するよう呼びかけを行う。	⑤⑦	B		
		ＤＶＤなどの視聴覚教材を取り入れた授業が行える環境を作り、授業以外での活用も提案する。	⑤	A		
	図書委員会、視聴覚委員会活動の強化を図る。	委員としての役割を認識させ、責任を持って活動できるよう指導する。また、学校行事や研修会などへの積極的参加を促す。	⑩	A		

						設置により、更に活用しやすくなると思われる。
※評価基準　A：大変よくできた。　B：よくできた。　C：やや不十分。　D：不十分						
評価項目	具体的目標	具　体　的　方　策	関連項目	評価		次年度（学期）への主な課題
教育相談部	心の問題を抱えている生徒の早期発見と適切な対応	担任や年次と常に情報を共有しながら。必要があれば支援体制を整え、外部機関との連携をはかる。	⑦	B	A	スクールカウンセリングの運営は円滑にできた。教育相談部の相談部だより「談話室」を情報提供の場として考えていたが、生徒に十分に活用されていないような印象がある。ホームページ等で配信する方が、教育相談関係の施設等の情報を得る機会を増やすことはできるので、次年度は検討したい。職員対象の研修は、毎回テーマ選びが難航するのだが、今年度はアンケート機能で要望を集め、先生方は要望を出しやすかったと思う。スクールソーシャルワーカーは、家庭の状況の理解と調整、関係機関の情報提供
		生徒が前向きに学校生活を送れるような環境づくりに努め、必要とされる様々な情報を提供する。	⑦	B		
	スクールカウンセリング活用の体制づくり スクールソーシャルワーカー活用の体制づくり	カスクールウンセリングを通して、生徒、保護者、教員への支援に努める。	⑦	A		
		スクールカウンセラーとの円滑な情報共有を図り、スクールカウンセリングの有効活用を促す。	⑦	A		
		職員対象の研修会を企画し、スクールカウンセリングに対する知識と理解を深める。	⑦	A		
		スクールソーシャルワーカーとの円滑な情報共有を図り、問題を抱える生徒の環境調整を図る。	⑦	A		

						等で大変力になってもらった。今後も必要があればスクールソーシャルワーカーを要請し、連携して生徒を支える体制を維持したい。
1年次	基本的生活習慣の確立	高校生として規律ある行動をとるよう促し、身の回りの整理整頓や時間厳守など、集団の一員であることの自覚を身につける。	⑥	B	A	・長期欠席者や途中転学者が多かった。生徒と対話する時間を増やし、これまで以上に各生徒の実態に応じた指導ができるようにしていきたい。 ・毎週年次からの学習課題を配信し、生徒の学習習慣の定着のきっかけづくりを行った。次年度も継続していきたい。 ・年次間の情報共有と連携をとり、連携して指導を行うことができた。今後もコミュニケーションを十分にとっていきたい。 ・部活動の途中退部者が多かった。学校生活に目を向けるために
	学習習慣の定着と学力の向上	日々の授業を大切にし、意欲的に学習に取り組む姿勢を育む。	①②	B		
		基礎学力の定着と応用力の向上を目指し、生徒の実態に応じた課題や課外の在り方を考え実践する。	①③⑤	A		
	個に応じた進路選択	分野別の学習内容および自分自身の適性について理解を深めさせ、総合学科の特色を生かした進路選択を提案する。	①②	A		
		進路についての情報や学習に対するアドバイスを積極的に提供し、個人の特性・希望にあった進路の方向性を見いだせるよう支援する。	②④⑤	A		
	特別活動への積極的な参加	部活動や特別活動への参加を促し、個人の能力の向上と学校の活性化につなげる。	⑧⑨	B		
		ＨＲ、行事、委員会、ボランティア活動を通して心の教育を推進し、学校生活の充実を図る。	⑧⑨	A		

						も部活動への再参加を促していきたい。
２年次	自己実現のための確かな学力や広い視野の育成	日々の授業の重要性を意識させ、課外授業や ICT 機器等を活用しながら学習に取り組ませる。	①②③	B	A	・オンライン学習サービスや進路ガイダンス等を活用し、年次生徒全体の学力やモチベーションの向上に努める。 ・主体的な学校行事への参加を促したり、教室での雰囲気づくりを工夫したりしながら、高校最後の一年を充実して生活してもらうよう努める。
		希望の進路の早期決定に向けて支援を行い、進路実現に必要な能力の向上に努める。	③⑤⑩	A		
	基本的生活習慣の確立	無駄な夜更かしをせず、一定の睡眠時間を確保するよう指導する。	⑥⑦	B		
		時間を守り、提出物は期限内に必ず提出するよう指導する。	⑥⑦	A		
	校則の順守と積極的な挨拶の推進	自分勝手な行動をしないよう指導し、他人の気持ちを考えて行動させる。	④⑧	A		
		先生方や来客に、笑顔で元気よく挨拶できるよう指導する。	④⑨	A		
	職員同士や保護者との連携	ICT 機器等を活用して情報共有を徹底し、生徒対応に差が出ないよう職員同士の連携を密にする。	⑪⑫	B		
		保護者との連携を密にし、本校の指導に対して理解と協力をしていただくよう努める。	⑪	A		
３年次	基本的生活習慣の確立	高校生として規律ある行動をとるよう促し、身の回りの整理整頓や時間厳守など、集団の一員であることの自覚を身につけさせる。	⑥⑦	B	A	進路指導をする際の注意事項や指導方法について年次内だけでなく、年次間での情報交換を密にすることが重要だと感じた。引き継ぎ会だけでなく、その他の場面でもしっかりとコミュニケーションをとっていくよう心がけたい。
	学習習慣の定着と学力の向上	日々の授業に対し、真摯に取り組み、意欲的に学習に取り組む姿勢を育む。	①②③	A		
		基礎学力の定着と応用力の向上を目指し、生徒の実態や進路希望に応じた課題や課外の在り方を考え実践する。	③④⑤	B		
	個に応じた進路選択	自分自身の適性について理解を深めさせ、分野および適性に応じた進路選択を提案する。	②③④	A		
		進路について適切な情報提供およびアドバイスを行い、個人の適性・希望にあった進路の方向性が見いだせるよう支援する。	②④⑤	A		

	特別活動への積極的な参加	部活動や特別活動への参加を通し、個人の能力の向上と学校の活性化につなげる。	⑧⑨	B		
		ＨＲ、行事、委員会、ボランティア活動を通して心の教育を推進し、学校生活の充実を図る。	⑧⑨⑩	A		
※評価基準　Ａ：大変よくできた。　Ｂ：よくできた。　Ｃ：やや不十分。　Ｄ：不十分						